

仙ノ倉山～シッケイ沢

メンバー：
猿田、長谷川

4月13日(日) 快晴

土曜日は石打峠の通行がなく、最終の新幹線で越後湯沢へ出た。朝までゆっくり眠れると思ったが、待合室の同宿者の中に大いびきをかく人がいて何度も目をさました。

翌朝一番バスに乗って火打峠に出、河内沢の林道を進む。快晴の天気のもと平坦な登りが続き少々眠くなる。登山口の標識を過ぎた所から尾根に取りつく。私はスキーアイゼンで、猿田氏はスキを引っぱって急登を登り、平櫻山ノ家の上部の緩線に出た。平櫻山をトラバースし、コルからはシートラーゲンで夏道を行く。仙ノ倉山まではコブがいくつも連なり、相当遠くの旅に感じた。

12時ちょうどに山頂に着く。展望は良く、遠く浅間や武尊がよく見えた。山頂でスキーをつけ、北峰(三ノ字頭)直下の急斜面を一気に滑り、並の出てきた所からシッケイ沢へまわりこむ。ひと休みした1650m付近まではフィルムクラスト状の最高の雪質であった。沢の中から対岸の万太郎山を眺めると大きく急峻な感じを受ける。ひと休みした所からは雪がやや重くなったり、比較的雪質の良さそうな尾根状の所を滑る。沢にはりり、新雪が残っている所にふみこむとスキーに急ブレーキがかかり滑りづらい。表面が少し汚れたザラメ状の所となるべく躊躇して滑る様にする。沢の中は小さなブロックが散らばっている程度で、デブリはみられなかった。毛渡沢出合で休止。標高差1000m近くの滑降を終え、久し振りに充実した滑りを楽しめた気持ちがした。

毛渡沢沿いに少し下り、オキイノマチ沢を少し登って台地状の所に出て、そのまま右岸を進む。丸太3本の橋と薛大ヒュッテ前の崩れかかってたつり橋を渡る時は気をつかった。

土樽駅で荷物の整理をしていろといひ、こり島田さんがはり、てきに、高瀬会の人と蓬沢へ行、た隣りとのことであった。我々はひと足先に越後湯沢まで出て、新幹線で帰京した。(記、長谷川)

【タイム】火打峠 7:10—尾根取付 8:30—緩線 10:20/30—コル 11:05
/15—仙ノ倉山 12:00/30—毛渡沢出合 13:00/20—土樽 15:40